

## 大会規則および選手注意事項

本大会は、2021年度(一財)日本陸上競技連盟規則によって行う。

1. 練習場は補助競技場とし、係員の指示に従って練習すること。ただし、投てき種目の練習は禁止とする。
2. 招集は、招集所にて第1チェックをうけ、靴底チェックを受ける。トラック競技は開始 15 分前、フィールド競技は 30 分前までに現地に集合すること。
3. 競技場は全天候舗装であるので、スパイクピンは 9mm 以下とする。ただし、走高跳およびジャベリックスローは 12mm 以下とする。
4. 競技用具の持ち込みは、競技前に必ず検定を受けなければならない。
5. アスリートビブスは必ずユニフォームの胸背部に確実に縫い付けること。ただし、走高跳と棒高跳と走幅跳については胸背部のどちらか一方でよい。
6. ユニフォームの上着の端は、ランニングパンツ等の内側に必ず入れること。
7. セパレートレーンで行われる競技では、決勝戦通過後は自分のレーン(曲走路)を走り、他走者の邪魔をしないこと。
8. **トラック種目は、1ラウンド目の記録上位8名で2ラウンド目を行う。走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ジャベリックスローは、3回試技を行い上位8名で残り3回の試技を行う。**
9. 走高跳・棒高跳びのバーの上げ方は下記の通りとする。  
＜走高跳＞  
男子(練習 1m25)30-35-40-45-50-55                      以後 3cm ずつ上げる。  
女子(練習 1m05)10-15-20-25-30                      以後 3cm ずつ上げる。  
＜棒高跳＞  
男子(練習 2m00) 2m00-20-40-60                      以後は 10 cm ずつ上げる。  
女子(練習 1m80) 1m80-2m00-20                      以後は 10 cm ずつ上げる。  
◎特殊条件によって変更するバーの上げ方は審判長が決める。
10. ハードルの高さは女子(76.2cm、8.5m)、男子(99.0cm、9.14m)とする。また砲丸投の重さは、女子は 2.72kg、男子は 5 kgとする。また円盤投の重さは、男子は 1.5kg、女子は 1.0kg とする。
11. 本競技場は、7時から8時30分までとする。これ以外は補助競技場で行うこと。
12. 屋内練習場は、練習を禁止とする。ただし、気象状況により主催者の指示で解放する場合はある。
13. 発病、負傷に対しては応急処置のみ行う。
14. 挑戦会種目で、1位になった学校の監督は、本部までジュニアオリンピック参加申し込み書を取りにくること。